



アベイラビリティおよびインスタントメッセージの設定

- [アベイラビリティおよびインスタントメッセージの概要（1 ページ）](#)
- [アベイラビリティおよびインスタントメッセージの要件（2 ページ）](#)
- [アベイラビリティおよびインスタントメッセージのタスクフロー（3 ページ）](#)
- [アベイラビリティおよびインスタントメッセージング連携動作および制限事項（6 ページ）](#)

アベイラビリティおよびインスタントメッセージの概要

IM and Presence Service を使用すると、ユーザは自身のステータスを連絡先と共有することができます。

ポイントツーポイントインスタントメッセージ機能は、一度に2人のユーザ間のリアルタイム会話をサポートします。IM and Presence Service は、送信者から受信者へのユーザ間のメッセージを直接交換します。ポイントツーポイントのインスタントメッセージを交換するには、ユーザがインスタントメッセージクライアントでオンラインである必要があります。

インスタントメッセージング機能には、以下があります。

インスタントメッセージフォーキング機能

複数のインスタントメッセージクライアントにログインしている連絡先にユーザがインスタントメッセージを送信すると、IM and Presence Service が各クライアントにインスタントメッセージを配信します。IM and Presence Service は、連絡先が応答するまで IM を各クライアントへのフォーキングを継続して行います。連絡先が応答すると、IM and Presence Service は連絡先が応答したクライアントのみに IM を配信します。

オフラインインスタントメッセージング

ログインしていない（オフライン）連絡先にユーザがインスタントメッセージを送信すると、IM and Presence Service はインスタントメッセージを保存し、オフラインの連絡先がインスタントメッセージクライアントに再度サインインした際に、そのメッセージを配信します。

インスタントメッセージのブロードキャスト

ユーザは同時に複数の連絡先にインスタントメッセージを送信することができます。たとえば、ユーザは、大規模なグループの連絡先に通知を送信することができます。

すべてのインスタントメッセージクライアントでブロードキャストがサポートされているわけではないことに注意してください。

連絡先リストの最大サイズ

ユーザの連絡先リストの最大サイズを設定することができます。これはユーザが連絡先リストに追加することができる連絡先の数です。この設定は、Cisco Jabber クライアントアプリケーションとサードパーティクライアントアプリケーションの連絡先リストに適用されます。

連絡先の最大数に到達したユーザは、連絡先リストに新しい連絡先を追加できず、他のユーザもそのユーザを連絡先として追加できません。ユーザが連絡先リストの最大サイズに近く、最大数を超える連絡先を連絡先リストに追加すると、IM and Presence Service は超過した連絡先を追加しません。たとえば、IM and Presence Service の連絡先リストの最大サイズが 200 であるとし、ユーザに 195 件の連絡先があり、ユーザが 6 件の新しい連絡先をリストに追加しようとする、IM and Presence Service は 5 件の連絡先を追加し、6 件目の連絡先を追加しません。



ヒント 連絡先リストのサイズが上限に到達しているユーザがいると、Cisco Unified CM IM and Presence 管理のシステムのトラブルシューティングに表示されます。

アベイラビリティおよびインスタントメッセージの要件

SIP 間の IM では、以下のサービスが IM and Presence Service で実行されている必要があります。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine
- Cisco XCP Router

SIP と XMPP 間の IM では、以下のサービスが IM and Presence Service で実行されている必要があります。

- Cisco SIP Proxy
- Cisco Presence Engine
- Cisco XCP Router
- Cisco XCP Text Conference Manager

アベイラビリティおよびインスタントメッセージのタスク フロー

IM and Presence Service 設定のアベイラビリティおよびインスタントメッセージを設定するには、以下のタスクを実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
Step 1	プレゼンス共有の設定 (3 ページ)	プレゼンスと IM のアベイラビリティを共有するクラスターレベルの設定を構成するには、以下の手順を使用します。プレゼンスの共有を使用すると、ユーザはお互いに IM のアベイラビリティのステータスを確認することができます。
Step 2	アドホック プレゼンス サブスクリプションの設定 (5 ページ)	一時的 (アドホック) プレゼンス登録の設定この設定で、ユーザは、連絡先リストに存在しない他のユーザのプレゼンス状態を一時的に表示することができます。
Step 3	インスタントメッセージの有効化 (5 ページ)	ユーザーがインスタントメッセージを交換できるようにシステムを設定します。

プレゼンス共有の設定

プレゼンスと IM のアベイラビリティを共有するクラスターレベルの設定を構成するには、以下の手順を使用します。プレゼンスの共有を使用すると、ユーザはお互いに IM のアベイラビリティのステータスを確認することができます。



(注) アベイラビリティの共有をオフにする場合:

- ユーザは、クライアントアプリケーションで自身のアベイラビリティのステータスを表示することができます。他のユーザのステータスは灰色で表示されます。
- ユーザがチャットルームに参加すると、アベイラビリティのステータスは、**不明**と表示されます。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、プレゼンス > 設定 > 標準設定を選択します。
- Step 2** クラスタ全体のプレゼンス共有を有効にするには、アベイラビリティの共有を有効にするチェック ボックスをオンにします。
- (注) 個々の Cisco Jabber ユーザは、自身の Jabber クライアントで、この設定を有効または無効にすることができます。この設定は、Cisco Jabber クライアント内でポリシー設定を再構成することによって有効または無効にすることが可能です。
- Step 3** 他のユーザの承認を要求せずに他のユーザのプレゼンスを表示できるようにする場合は、確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにするのチェックボックスをオンにします。オンにしない場合は、すべてのプレゼンス要求が他のユーザによって承認される必要があります。
- (注) 個々のエンドユーザは、Cisco Jabber クライアント内でポリシー設定を再構成することによって、この設定を上書きすることができます。
- Step 4** 連絡先リストの最大サイズおよびウォッチャの最大数（ユーザごと）設定の最大値を構成します。最大値を使用しない場合は、制限なしチェック ボックスをオンにします。
- Step 5** オプション。Cisco Jabber のユーザが、連絡先リストに登録されていない他のユーザのプレゼンス状態を一時的にサブスクライブできるようにアドホックプレゼンスサブスクリプションを有効にするチェックボックスをオンにし、追加のアドホックプレゼンスを設定します。
- Step 6** プレゼンス設定 ウィンドウで、その他のすべての設定を完了します。フィールドおよびその設定についてのヘルプは、オンラインヘルプを参照してください。
- Step 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 8** Cisco XCP Router および Cisco Presence Engine を再起動します。
- Cisco Unified IM and Presence Serviceability にログインして、ツール > コントロールセンター - 機能サービスを選択します。
 - Cisco Presence Engine サービスを選択して再起動をクリックします。
 - [Tools (ツール)] > [Control Center - Network Services (コントロールセンタのネットワークサービス)] を選択します。
 - Cisco XCP Router サービスを選択して、再起動をクリックします。
- (注) 編集したフィールドによっては、サービスを再起動する必要がない場合もあります。編集するフィールドの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
-

次のタスク

[インスタントメッセージの有効化 \(5 ページ\)](#)

アドホック プレゼンス サブスクリプションの設定

アドホックプレゼンスサブスクリプションを使用すると、ユーザは、連絡先リストに登録されていない他のユーザのプレゼンス状態を一時的に表示することができます。

始める前に

[プレゼンス共有の設定 \(3 ページ\)](#)

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > 設定 > 標準**を選択します。
- Step 2** Cisco Jabber ユーザのアドホック プレゼンス サブスクリプションをオンにするには**アドホック プレゼンスサブスクリプションを有効にする**のチェックボックスをオンにします。
- Step 3** IM and Presence Service が一度に指定する実行中の一時的（アドホック）プレゼンス登録の最大数を設定します。ゼロの値を設定する場合、IM and Presence Service は実行中の一時的（アドホック）プレゼンス登録を無制限に許可します。
- Step 4** 一時的（アドホック）プレゼンス登録の存続可能時間値（秒単位）を設定します。
- この存続可能時間値が経過すると、IM and Presence Service は一時的（アドホック）プレゼンス登録をドロップし、そのユーザのプレゼンス ステータスを一時的にモニタしなくなります。
- (注) アドホックプレゼンスサブスクリプションからのインスタントメッセージがユーザーに表示されている間に存続可能時間値が経過した場合は、表示されるプレゼンスステータスが最新でない場合があります。
- Step 5** **[保存 (Save)]** をクリックします。
- (注) この設定では、IM and Presence Service のいずれのサービスも再起動する必要はありません。ただし、Cisco Jabber ユーザは、サインアウトしてからサインインし直して、IM and Presence Service の最新のアドホック プレゼンス サブスクリプション設定を取得する必要があります。

次のタスク

[インスタントメッセージの有効化 \(5 ページ\)](#)

インスタントメッセージの有効化

ユーザーがインスタントメッセージを交換できるようにシステムを設定します。

始める前に

[プレゼンス共有の設定 \(3 ページ\)](#)

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、メッセージング > 設定を選択します。
- Step 2** インスタントメッセージングを有効にする チェック ボックスをオンにします。
- Step 3** 導入のニーズに沿うチェックボックスのオプションをオンにします。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。
- オフライン中の相手へのインスタントメッセージの送信を無効にする
 - クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログの許可（サポートされるクライアントのみ）
 - Allow cut & paste in instant messages
- Step 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

アベイラビリティおよびインスタントメッセージ連携動作および制限事項

機能	制限事項
アベイラビリティの共有	この設定をオフにすると、ユーザには自身のプレゼンスステータスのみが表示されます。アベイラビリティ情報をクラスタ内の他のユーザと共有することはできません。また、クラスタ外から受信したアベイラビリティ情報も共有されません。
インスタントメッセージ	Cisco XCP Router が突然シャットダウンした場合、またはユーザが停止/再起動した場合、最初または停止期間中に送信されたインスタントメッセージが宛先ユーザに配信されない可能性があります。メッセージを送信したユーザに警告メッセージが送信されない場合があります。 詳細については、管理者は Cisco XCP Router のトレース ファイル rtr-jsm-1 で「Dropping packet after jsm db shutdown」を含むエラーログ行を確認できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。